

玉井会長

「夢の持てる業界に」

指定検査機関連絡協总会



玉井健一会長

指定検査機関連絡協总会(玉井健一会長)は4月24日、東京・港区の航空会館で第26回総会を開催した。任期満了に伴う役員改選では、会長に玉井健一・カクラエンジニアリング社長、副会長に

田口明人・ガス保安検査社長を再選した。

今年度事業では、指定検査機関の検査実施率向上を目指した広報活動強化を柱に、経済省と高圧ガス保安協会へ意見具申、輸入検査分科会の開催、高圧ガス保安法研究会などへの講師派遣、指定機関検査技術者研修会の開催、保安検査技術向上を目的とした不具合データ収集などを行う方

針。予算規模は437万円。

再選を受け玉井会長は、「指定検査機関の位置づけ向上」「会員へのタイムリーな情報発信」に努めていく考えを強調。また、2020年の東京オリンピック・パリンピック大会に向け整備の進む水素ステーションの保安確保に向け、「指定検査機関の使命はますます大きくなる。会

員の意見を集約しながら、我々が果たせる役割を求めていく」と述べ、新たな事業領域開拓に意欲を見せた。

一方、新領域で存在感を高めるには次代を担う若手人材の育成が急務とし、「これまでに蓄積した知識や経験を、いかに若手に継承していくかが

課題となる。毎年、東京と大阪で開いている研修会をはじめ、教育関係には特に力を注ぐ。また、協議会活動の活性化を通じて、10年後、20年後に夢の持てる業界を目指していく」と力を込めた。